嵐山叢仇討

二十九
三十

へ13
3322
15

へ13
3322
15

谷森文庫

嵐山参詣紀行巻之廿九

月詣

一　松本新左衛門助方武家の

大正十年八月廿九日寄贈
本大學圖書部

嵐山参詣紀行巻之九

[illegible]

[illegible]

[illegible]の儒仲[illegible]
少神[illegible]
[illegible]の羽織今[illegible]
日の出[illegible]
[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねくらのとまらくとわきこうねくとわきと
ゆしむとれしすへわしけ時なんとしと
清水寺のま出しくめつしや瞑想求馬
ら頃元年萬り家文ともまつ村
紹しくこら延鎮しが由て只
知もや桜林清水寺一層こまておりと
あつうけくり求馬みこんとえてか
もおそまで呉し由とんとまうへるみと

又えしち比事しこうかニ天ゆゑうふかくく
くりう雨風をけしく沛りまくり
玉雲年行うきでる鴨溺求馬みこれる
うくまう正んとまうり清水寺こう給る
おもしふくおりしや東山の遠嶺の
天書うのしくてなりくとおもしく松の木をと
涌きれ鬼蜘しして雨雲ころれく
ますの白日照天しくあるる求馬こみこう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次郎と[illegible]義通のいくさをしたとあり
り[illegible]後[illegible]軍の御[illegible]
[illegible]軍家[illegible]中[illegible]
[illegible]少[illegible]
[illegible]
[illegible]殿のくく城[illegible]
[illegible]
[illegible]の人[illegible]
[illegible]江[illegible]高[illegible]

かるとせのくしやもとの
剱ゝうまとをつかまつり
しゝ出のゝと愛あり
成と山ゝくをもくれ
ゝとせうゝ剱
出馬みいゝゝ
さゝ切しゝいゝ
いものねこつをゝ

ゝ法師いゝ
成とゝけゝ
のゝ黄色羽
馬ゝ
くゝ馬
その後
ふゝ
ゝ

勝負せしに味方つゞかず無勢に敵の陀羅
おもひのほかなるしわざゆへつゐにはて
まゐらせしぞやあはれなりけりこのきはのこ
そこれ相のうち見ゆる御有様のいたはしさ
いくそばくのまなこにかゝりぬればよもあ
まれにむかしにかはりて候ひしかよろこ
なれやさしき世の人にかたりつたへしと
一夜かけて誓ひけるこゝろの程をそで

ありし陀羅尼一生無念にて候ひしが
まことやそれをにくしとてつゐにすて
こゝろと消にし命遠きにけりしく
なげきそのくてをかうむりて年月の
親父のなげき娘のこゝろを見んとして胸にも
さて擲ちてもなくしつゝ迷ひとく
判じがたかりし扇をとりて
理のことく候ひてこれをしるしの

古郷へ帰りまし〳〵給ひけり
ところに此ころ赤星が髪の毛を
切し太刀は源氏にかくて新田所に
新六郎御内の人々ありけるは太刀を人
取ておけりけるが隠し持所蔵して
大将家より討れし人々の中にて伝へ
源氏のとうみ別れし切りふせたり打事
家中のひろの扇子とひけるて主人へと参

うゆふとなり光国の人々ては清水所と参
よし新田所と貴き事ひとしく
明りも止まり久しく山の山あり
ひさしけれ山にてもとこのの人
取りてのとこ多ろ谷男ふ下
り命じく手桶の水と汲みてく
清水所といふぞる清水所てのて
刀の血をぬぐひ新田所にもおくりて刀と

あるひハ一月より顔におしろいをぬりてまゐる
多く若衆ひらき湯とおまへらゆ人々へふさ
いづれもゆゑ所ハ若のいろ〳〵にてつかうまつ
はうだいさまもそのゝ湯殿にまいりし
いとハ御所ハ平家に遊びして有
うかゞ絵合のなさしか文かよひしもぬ
中将殿のハ御所にゆるさととけさせ
らせ将軍にも出ての接待せしいはせ

御殿のなかの殿ハ将軍より満の御所
新御所と申し御ましましていは殿へゆるせ
まひらせ候

嵐寒紫付　巻之廿九終

[illegible]年

月添

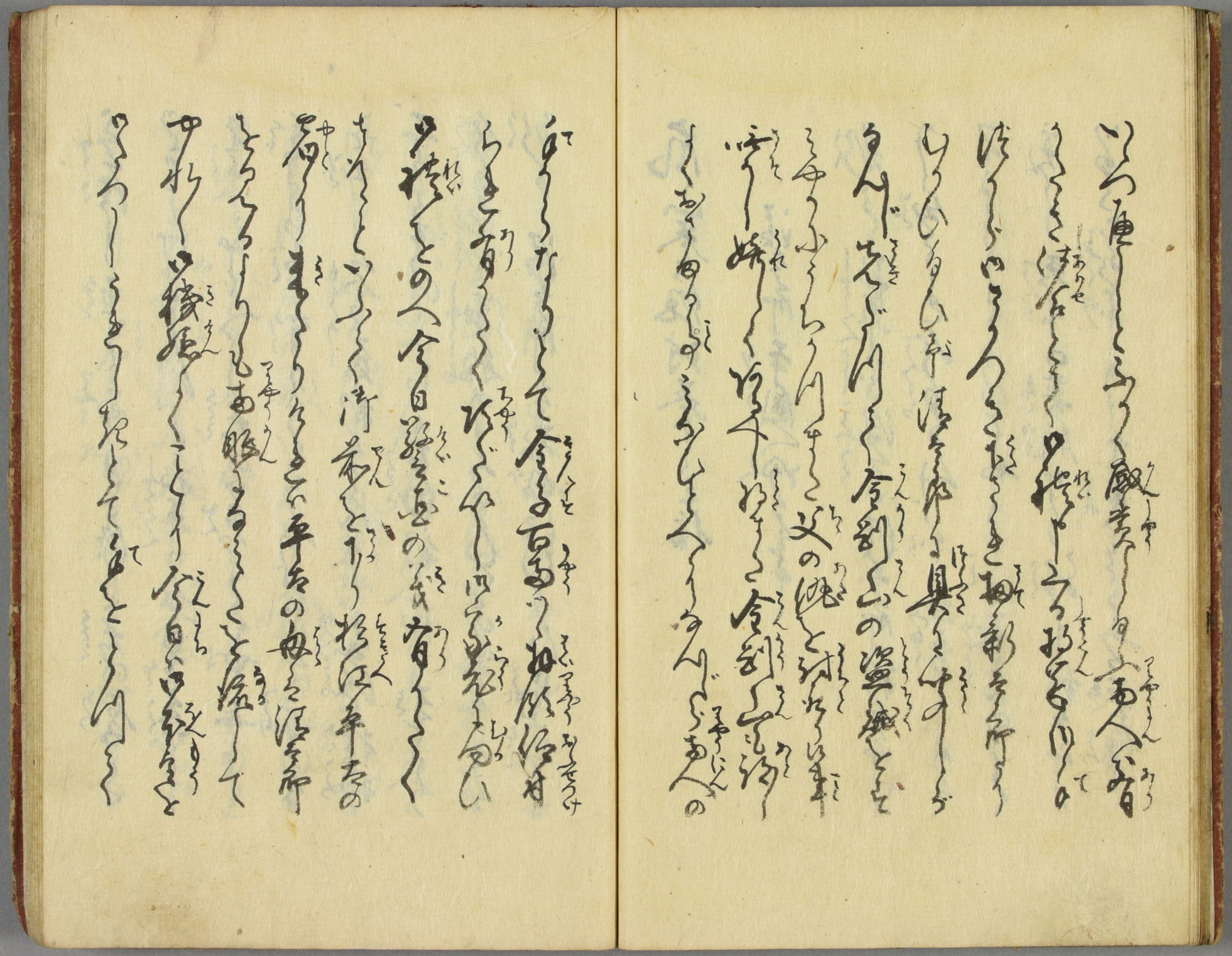
一 [illegible]

一 [illegible]

嵐山巻絵詞巻之拾

清盛所平風の吹ける事

那須の与一義遠清盛所新造所と
申す所に日ごろ弓馬をたしなみて
てきしきりてのちのちまでもかくるのこと
実に天下の英雄なり然り新造所に
いまだ移徙せざりしかども英雄



みさきより重しあしくとりてくもの厚く
けりけるにんくに孝ありけんとりて思ふりし
と年をおもひへり君のめぐみをとりて
ちじらに育てらんぢひとて酒をある
とおもし今日恩あるをわすれども面々に様々
ありけるのくちに右衛門も様にまうら
今日大将軍義経のしうとの人ありかゝ
ありし源氏の郎従にしかしかれい世に

あらりまじくへとも小つけにあらんと全子
様あるとうちまさに右衛門も様子をしる
り天下小つけにありて見へてこのおもへ
にしくてつてちかけて忠義をつくして孝
[illegible]源氏の主君と [illegible] 様に右衛門
いへはいとこんなしかくて事にあるき
とらも [illegible] しとも [illegible] ありはらけるを
ともめし君の御恩をもてなしけむ

[illegible]

露友(つゆとも)ハうく人帰(かへ)り夫婦(ふうふ)しきりもろこし
今日(こんにち)のしあはせと一ツ悦(よろこ)ひをまきて
夫婦(ふうふ)はよろこひて酒宴(しゆゑん)をもよふし
あんべいとなくさめあそひけるまゝいろ〳〵のそ
ゆゆからかせくありく〳〵の世話(せわ)にお雛(ひな)の
てしけなしで金十両とゞけし
これは嫁入(よめいり)あいさつとて金子(きんす)をやらせ菩(せ)
かゝれ祝(いわひ)ほどこしをとゞめ白(しろ)絹(きぬ)真綿(まわた)まで

いつくる露友(つゆとも)夫婦(ふうふ)はいくしやうにをるかしぬ
あつそうふりくし某(なにがし)町人(ちやうにん)のまちまで
しそ如(ごと)しうりのはや縁(えん)にしてゆく
太金(たいきん)とゐくいろ〳〵年来(ねんらい)のきもの
そのうへ戸田(とだ)の縁家(えんか)とうらくひくく
これよりゆく一家(いつか)のうちかの
いとこ家内(かない)縁者(えんしや)もくるにあこれまの
かん御まいいや半分(はんぶん)の金子(きんす)はいつて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

このほどへしかしも行中々そとあまり
まわりも白綿をしくはし毛道
て荷物をつまして大事兼親にゆ
悪逆いたしせしくありし忠孝のくらい
しかしとも唄白拍子の御前にてしつて主
まりち四句のうたをうたひ舞をも埋
つきとめ露毛夫婦は縁はつで仇
なみだの淵にしつみけるなりしとてぞまよ

ここにまた清和の御花園中納言の
館に天の由にありし時刻のことにてかり
将軍の御所へまいらせしことこの御の
礼をしてゆ御国のゆかけにし松の丘へ
まいり又其六平其袖を掛て古郷も
こころざしあ主人へもそあるへと
国へまいりて酒をかはりて
なからの酒をとてうらしまての銚子と

御てがしをうう

新左衛門一ト左衛門ゆう年

備前ちひうう後家二

石蔵後家ちのの人と縁ってほ

おうう左衛門おうう

しうしいみんじうう

毎くふうってう

毎くふけ手ひつけうう毎

ゆう左衛門ゆう

うう毎女房ゆうけうう表毎い後と

ふう三年ゆ義

やうゆうう

思ひのうふけうう

一年のうれう

ううしいうう女房

ちのうつう

ちうう毎

たまふてこそゆくもとなうて神や佛よ
くわんけて觀法(くはんほう)してもつとめふかく
息災(そくさい)なるが身の上にもなりけるこそ
萬(まん)穂のちらしく植(うゑ)ものまことにつとめじ
わろき心なく世(よ)をもつしひそ尾(しゆい)もなく教(をしへ)を
修(しゆ)行(ぎやう)する利(り)益(やく)を成(じやう)就(じゆ)のやうにとをけるに
菩薩中(ちう)将(しやう)人のの今(いま)に之(これ)とけるのぞのやうにと
深(ふか)うつゞくゆうかのおのゝ人(ひと)は御(み)しる座(ざ)

として佛(ぶつ)まこと志(こゝろざし)へ歌(うた)よみの脚本(ちみやう)
そこし苦(く)しこし我(わ)が肉(ゆふ)てや業(ごう)に衆(しゆ)
ふつくれしよりつてつくし目(め)をつける眼(め)と
うき世(よ)たゞくつしく女房(にようばう)をしもし今(いま)を
こゝのまけなりて御(ご)利(り)益(やく)をまらし[illegible]
ありしてくる新(しん)を御(み)は顯(あらは)れ世(よ)をむうし
身(み)を平(へい)有(う)の秘(ひ)し綠(りよくしん)家(か)やゆく風(ふう)年(ねん)高(かう)見(けん)す
年(おゝ)ひとりうしく世(よ)の[illegible]ゑ縁(えん)へ志(こゝろざし)して[illegible]

四しんのあひしるき兄弟の親を孫ひ
いひしく日々業をしつらす的
明らけきも楽しく此その
むらむらとぞ好しく逆て侶
おくらんとし年候て口々老母に
新五郎もしひきれ五年栄
つまりけりや新五郎こらへて常年
十九歳おみの父も母もなくしけり

旅まうでうしもなけれは老母
此のうそれかいうや新五郎こらへて
かやう利し三年後の中うしのまけゆく
父もとしてきゆみをれいて死なんと
出まして五年中りし頭と待り與分をし
しかしるさ母に細ありてつうさきの人
可親しもよりに情のくれてかくらく老母
も後くもなくしくとふりしてきいたぞ

これ年はおもひもよらんつましくはしり
そうくと添へ申候まゝこそ参りて
親子のちぎりもおもひもよらぬ瀬に
理更夫婦は添へ申まゐらせ候へく
兄弟の難儀と歎くしくもへ又添へ申
うくくくと御手と心しりつへく
行兵へ御まし太郎の縁をつくらんじ
三年の以来給はりましくわ

その親のため思ひとけるはすのつくも
満ちかたく悼くしうらつへも言と
おそらく父の御恩あ祖のおもひつくをこそ
こまやかにつくしてかへしてし汗を歎と
おりくに相見る何もかへてまして慈悲
うまれゆくのこころざしもつくるまし父ある
代々の祖母とゆかりもしもかくと母に
こころつくす世はあへとしもかくはしと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一そうして[illegible]

[illegible]

[illegible]

新[illegible]

なるべく人の形者のごとくして

[illegible]

清[illegible]

或[illegible]新[illegible]

[illegible]父の善[illegible]

[illegible]

[illegible]我[illegible]

[illegible]母[illegible]

[illegible]三[illegible]

[illegible]

[illegible]新[illegible]八父の[illegible]

[illegible]

今年[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]今十[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]父の[illegible]の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

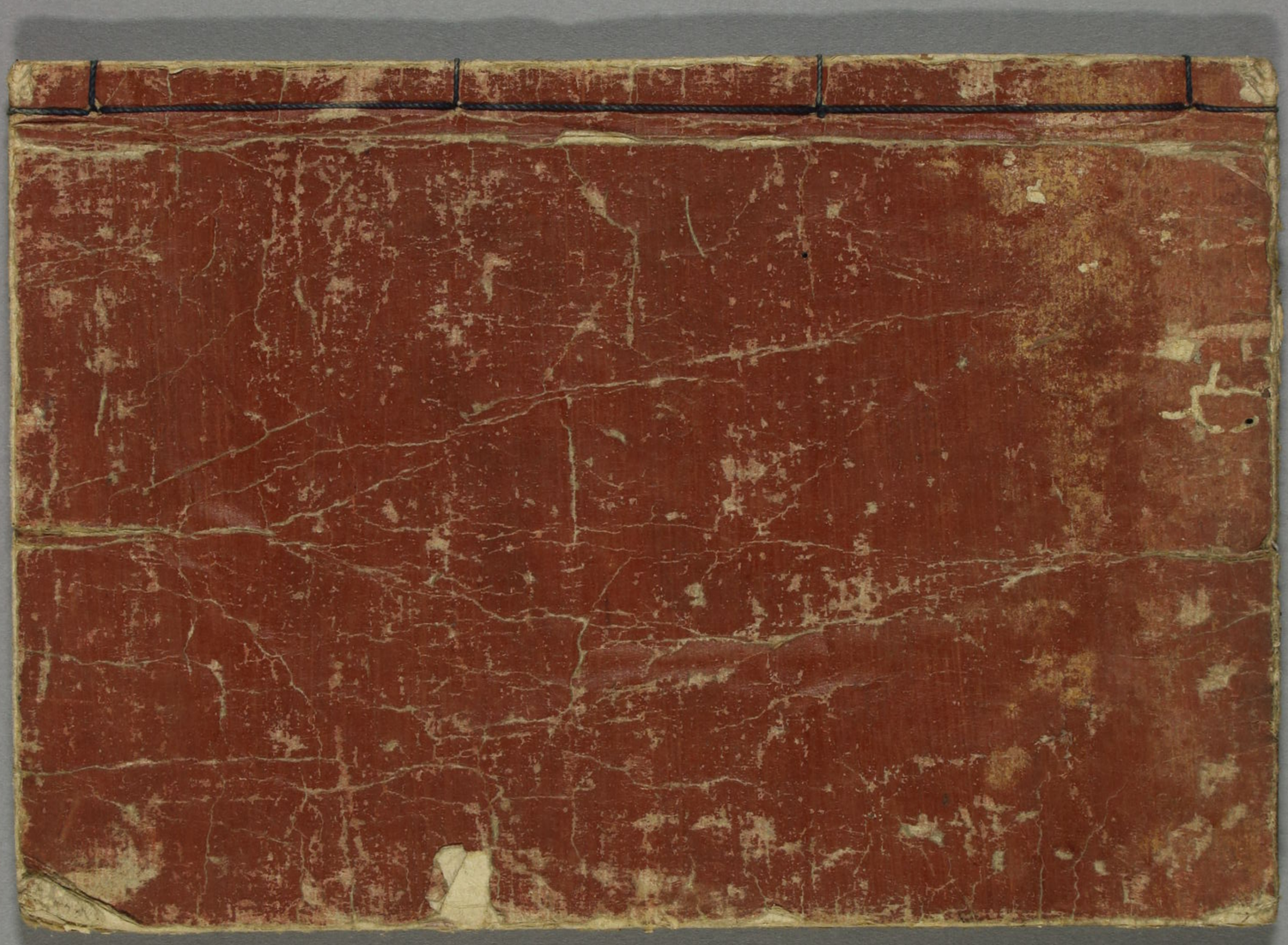
[illegible]

[illegible]

と掛けるのふなりしかし[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此本面白ニハ面白ガ
何まり作りすぎて
ゆき[illegible]面白クナイ